

2021年度の学校教育活動に対する学校評価書

【目指す学校像】

(1) 教育目標

『自分のようにあなたの隣人を愛しなさい』の建学の精神のもと、豊かな心と高い知性を持ち、心身ともに健康でたくましく、時代の変化に的確に対応して未来を切り拓いていく、実践力のある人材の育成を図る。

(2) 目標具現化の柱

- ア 知・徳・体の基本を身に付けさせ、何事にも主体的に取り組み自己の力を発揮することができる生徒を育成する。
- イ 高い志を持ち、自己表現のための確かな目標を定め、自らの進路希望を実現できる生徒を育成する。
- ウ 学校・家庭・地域と連携した教育活動を行い、保護者・地域に信頼される学校づくりを推進する。

【目指す教職員像】

聖隷クリストファー中・高等学校の教職員は生徒一人一人の成長を第一に考え、次のような教職員を目指し常に最善の努力をします。

- 1 生徒理解に努め、教育的愛情を注ぐ教職員
- 2 教育のプロとして専門的知識を持ち、実践力を発揮する教職員
- 3 協力・協働して職務を遂行する教職員
- 4 経営的視点で積極的に学校経営に参画する教職員

【2021年度の取り組み】（重点目標はゴシック体で記載）

※評価点：A（十分に効果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）・D（成果がなかった）

	取組目標	達成方法	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	反省と改善策	評価	意見
(1) 基本的 生活習慣の 確立	基本的生活習慣を確立させる	授業、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動等を通して、挨拶励行、時間厳守、礼儀・マナー等について、生徒が自律的に行動するよう指導する。	生徒指導 各学年	B	部活動単位で、挨拶・礼儀・規範意識の習得に取り組んだ。 コロナ対応のため、生徒会による挨拶運動は自粛となった。	B	来校者への挨拶がしっかりできている生徒が多い。
		心身を鍛え、何事にも粘り強くチャレンジする活動を充実させる。	生徒指導 生徒会	B	コロナ対応で、制限が多い中で、生徒会を中心に聖隷祭・球技大会を実施することができた。校内発表のみであったが、クラスごとに協力して取り組むことができた。 部活動の活躍により、生徒が誇りと自信をもつことができた。	B	新型コロナ禍においても、安全を心がけながら学校行事を行おうとする姿勢が大切である。

	取組目標	達成方法	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	反省と改善策	評価	意見
(2) 学力向上	基礎学力定着と、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成する。	育成すべき資質・能力を踏まえた学習指導を推進するために、シラバスの改善を図る。	教務	C	来年度高校1年生より新課程となり評価方法も変わる。それに合わせてシラバス書式も改定させることができた。新課程初年度で検証しつつ、一層の改善を図っていきたい。	C	学習指導要領改定による観点別評価の導入への対応は大変だが、推進してほしい。
		校内外の研修を積極的に取り入れることで、教員の資質向上を図る。	研修	A	タグラインを作成する研修に、全教員で取り組み、教員の意識向上を図ることができた。	A	公立では働き方改革の中で研修機会が減っている。一方、聖隷クリストファーでは研修の機会を増やし新人教員指導担当者を置き、授業アンケートの改定や研究授業増加など研修を強化したことは素晴らしい。管理者が率先して推進してほしい。
		「豊かな学力」を育成するために、ICT機器等を活用した授業の改善を図る。それにより「何ができるようになるか」を明確化する。	研修 各教科	C	中学と英数科ではタブレットを利用した授業が一段と進行した。高校普通科では生徒向けタブレットの納品ができなかったが、プロジェクターが完備され、授業での活用が進んだ。	C	今年度は生徒向けタブレットが納品されなかったが、次年度納品となれば、授業改善やそのための研修の推進は良い方向である。
		読書活動を充実させ、読書を通じて活字に親しむ習慣を確立させる。	図書	B	徐々にではあるが、国語以外の他教科でも図書館の利用が進んだ。	B	子ども達には読書を通して「言葉を作る能力」を持たせてほしい。新着図書に堅苦しくない本を選び、生徒が親しめる工夫をしてほしい。読書指導は読書している生徒への声掛けなど、教員が生徒に親しく関わる機会となる。

	取組目標	達成方法	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	反省と改善策	評価	意見
(3) 豊かな人間性・社会性の育成	豊かな人間性や社会性を育成する。	聖隷の建学の精神、歴史、伝統を伝え、キリスト教主義学校の校風を醸成させる。	宗教	B	今年度も朝の礼拝は放送礼拝のみ。昨年度実施できなかった音楽礼拝（特別礼拝）は、高校3年生のみがアリーナで生演奏を体験、その他は教室にてオンラインで実施できた。クリスマス礼拝、花の日礼拝もコロナ対応で縮小しつつも、新しい工夫を取り入れて実施。本校の伝統行事として生徒に体験させることができた。	B	聖書の箇所に関連させながら、全教員が自分の体験談や社会観、生徒への勧めなどを話す、朝の礼拝は良いと思う。
		より良い社会づくりに主体的に参画する意欲と態度を育成する。そのため、ボランティア等、社会貢献活動への積極的な参加を促す。	生徒指導 生徒会 労作	B	ボランティア等、校外での活動は、コロナのため制限せざるを得なかった。通学路の危険個所の写真を、教室のモニターで随時提示したことで、生徒が危険個所を実際に認知することができた。交通マナーについて、苦情を受けることが例年に比べやや多かった。交通立ち番を当番制で行い、実地の声掛け指導の機会を増やした。自ら規範意識を身に付け、地域における模範となり、ひいては本校生としての誇りを持てるような、人間指導を目指したい。	B	国道257号線での高校1年生の自転車の交通マナーが悪い。年々マナーが落ちているように感じる。指導をお願いしたい。
		聖隷グループの施設や地域社会との関わりの中で、聖隷人としての自覚を促し、「隣人愛」を合言葉とする規範意識の涵養を図る。	生徒指導 生徒会 労作	B	昨年度はほとんど施設労作ができなかったが、今年度はコロナ感染の拡大などの制約の中でも、工夫をして出来る活動を行った。竹林労作を通して労働の厳しさを知り仲間と協力し地域貢献することの大切さを学んだ。	B	聖隷ならではの教育実践や地域貢献を続けてほしい。

	取組目標	達成方法	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	反省と改善策	評価	意見
(4) 安心・安全な学校生活と生徒の主体性の育成	安心・安全な充実した学校生活を通して、様々な活動に主体的に取り組む態度を醸成する。	生徒の自己肯定感や自尊感情を高める活動を積極的に取り入れる。	各学年	C	クラス開きの際にピアサポートなど、生徒間の関係をつくる活動を取り入れたが、全クラスでの実施まで至らなかった。	C	年度当初の生徒の人間関係作りの大切さと難しさがある。
		教育相談体制を充実し、生徒理解と個に応じた指導・支援を行う。	生徒支援	A	相談室の活用が多く、生徒の満足感も高かった。	A	公立中学ではカウンセラーは週1回来校。聖隷クリストファーでは次年度から常勤で配置されるとのことであり、大変良いことである。
		生徒カルテにより生徒情報の共有を図り、全教職員が連携した指導・支援を行う。	生徒支援	C	カルテの整備は十分進まなかった。しかし、情報共有が促進され、ケース会議も何回か実施され、関係者グループでの相談が密になった。	C	教員の生徒に関する情報の共有が進んだことは生徒指導が前進できたことである。
		新型コロナウイルス感染対策を図る。	保健 全教職員	A	保健室を中心にきめ細かな感染対策が行われた。消毒の呼びかけだけでなく、健康調査票の提出や黙食指導も年間を通して実施された。	A	良好である。

	取組目標	達成方法	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	反省と改善策	評価	意見
(5) キャリア教育の推進	教育活動全体を通じたキャリア教育の推進をする。	あらゆる教育活動において、キャリア教育の視点に立った進路指導を推進し、職業観・勤労観を育くみ、積極的に社会参加する意欲と能力を育成する。	進路指導 各学年	A	<p>【中学】 週1時間（1単位）ずつのキャリア学習と人間探究の時間が有効的に使われた。</p> <p>【高校】 3年：担任による個別への丁寧な指導により、多数が希望進路の実現のために挑戦することができた。R-CAP やキャリアパスポートを用いた面談が頻回に実施された。</p> <p>1年：上位クラスへの移動希望の生徒が多く、向上心が見られる。大学見学会、LHR 等で進路指導、SDGs 等の指導を行い、世界に広く目を向けるよう促している。</p>	A	公立もキャリア学習を進めており、児童生徒の生き方指導となっている。
		進路希望の多い医療・看護・福祉・教育分野での資質向上を目的とする聖隷プロジェクトを実施する。	進路指導 聖隷プロジェクト 英数科	B	聖隷クリストファー大学と連携し、医療・看護・福祉・教育分野に興味を持つ生徒に対し、早期から専門分野の知識と職種について学習させた。	B	聖隷でしかできない月1回のプログラムである。
		高大連携による大学での学習や研究活動の体験を充実させ、大学に対する興味・関心を高める。	進路指導 英数科 各学年	B	英数科の「人間探究」において静大理・工学部の先生による、理・工学の先にある世界について講義を受けた。 静岡県立大学、静岡文化芸術大学、南山大学から講師を迎え、国際関係、経営、理・工学等の分野についての学びを深めた。	B	他大学との高大連携も大切である。

		学習環境整備のため、セミナールームの活用について検討する。	進路指導 英数科	C	平日及び土曜日（授業日）の午後、自習室として開放し、私語厳禁で集中できる場所として利用を促した。定期テスト前の利用者が多い。	C	自学自習の教育環境があることが良い。
		小論クライミングの充実を図り、時事ニュースに関心を持たせ、知識を蓄積する。	進路指導 各学年	B	<p>【中学】 読売新聞の「読解力向上プロジェクト『よむ YOMU ワークシート』」を定期的実施。また学期の始めと終わりや行事ごとに作文を書かせる。</p> <p>【高校】 1年：小論クライミングのテキストを作成して持たせ、系統だてて指導を行った。担当者を軸に内容の改善が進んだ。 2年：テキストを利用して、主に志望理由書作成について継続的に指導している。 3年：小論クライミングに加え、実際の出願に必要な文章作成の練習を繰り返し行った。</p>	B	読解力、表現力の養成は大切である。

	取組目標	達成方法	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	反省と改善策	評価	意見
(6) 地域との連携と情報発信	地域と学校の教育連携の推進と情報発信を充実する。	地域・関係機関との連携を強化するとともに、グループ施設や地域の諸活動への参加を促し、体験を通して達成感や充実感を味わえる機会を増やす。	宗教	B	クリスマスのキャロリングは、アドナイ館、三方原スクエアと協力して実施、入居者に喜んでもらえた。ハンドベル部、吹奏楽部は聖隷諸施設への慰問演奏をコロナ禍ではあったが実施した。	B	地域貢献をますます進めてもらいたい。
		法人と連携してクリスティー小学校との災害時の体制を整備するとともに、防災教育の充実を図る。	渉外	B	4・9月に小学校と合同避難訓練を実施。講師を招いての防災教育実施。教員対象の防災研修を実施。	B	校内だけでなく、地域の防災訓練に積極的に参加することは大切である。
		学校公開やHPによる広報活動をより一層充実させ、本校の教育活動について小学校・中学校や地域へ積極的に情報発信する。	入試広報	B	<p>【中学】</p> 広報はままつ5月号に全面広告を掲載、浜松市内に全戸配布された。SNS利用では、保護者世代の閲覧数の多いInstagramストーリーズ広告など、新しい媒体利用を試みた。	B	学校の情報発信に、教員や総務部だけでなく、生徒から発信のアイデアをもらうのも良いのではないかと。
					<p>【高校】</p> 学校の諸活動や募集情報をタイムリーにHPやSNSで発信できた。また、必要経費や就学支援金について分かりやすい資料を作成し、広報活動に役立てた。外部の方をお招きして学校を公開する機会は減ったが、オープンスクール等の広報行事は周到な対策の上で実施し、多くの参加者を得た。		

	取組目標	達成方法	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	反省と改善策	評価	意見
(7) 特色ある学校づくり	特色ある学校づくりを推進するために、教育課程等の検討を行う。	新学習指導要領による 2022 年度入学生からの教育課程の改善を検討する。	教務	C	カリキュラム上、家庭科及び公民/公共で左記の対応ができるよう変更した。今後、授業内容の工夫や外部講師の活用など、様々な角度からより効果的なものにするために検討をしていきたい。	C	新学習指導要領への対応を進めてもらいたい。
(8) 学校運営	安定した学校運営	生徒募集（定員確保）	入試広報 総務	C	【中学】きめ細かい情報提供や、相談ができ、本校の求める生徒像をお伝えすることができた。 【高校】 就学支援金拡充等による私立校人気や部活動の活躍などで、本校への希望者が増加傾向にある。	C	特色ある教育を積極的に発信してもらいたい。
		保健室登校、別室登校、不登校の生徒への対応をしっかりと行い、転退学させない指導をする。	保健 各学年 各教員	A	担当部署がチームとして連携を取り、多面的に対応することができた。 学習支援員が生徒の状況を把握し、面談だけでなく、勉強の補助も行い、意欲を喚起することができた。	A	従来は友人関係の問題だったが、近年は問題が複雑化し指導が難しいケースが多い。 公立高校でも毎年 10 名程度の転退学者が出る。